

審議会等の会議結果報告

1 会議名	第4回芸濃地区地域審議会
2 開催日時	平成24年8月22日(木) 午前9時30分から午前11時05分まで
3 開催場所	芸濃総合支所 1階 中会議室1・2
4 出席した者の氏名	<p>(芸濃地区地域審議会委員)</p> <p>伊藤さゆり 岡本 陽子 落合 美憲 片岡 福生 片岡 正春 小林小代子 駒田 とき 佐野 憲夫 篠原 義生 鈴木 宗男 高土 稔 中村 市江 濱野 章 山田 孝浩 吉田 幸男</p> <p>(津市)</p> <p>市長 前葉 泰幸</p> <p>(芸濃総合支所)</p> <p>総合支所長 関山 淳 地域振興課長 駒田 庄司 地域支援員 平松 卓美 危機管理担当副参事 山川 洋子 産業振興・環境担当副参事 松田 雅哉 市民福祉課長 倉田 和夫 地域振興担当主幹 駒田 勝巳 地域支援担当主幹 駒田 幸宏 地域振興担当副主幹 木下 信人</p> <p>(教育委員会事務局)</p> <p>芸濃事務所長 竹村 健 芸濃事務所主幹 藤谷 弘一</p> <p>(政策財務部)</p> <p>政策課長 山下 佳寿 地域政策課長 北川 良治 政策課主査 深堀 巧</p>
5 内容	<p>1 あいさつ</p> <p>2 地域が目指すまちづくりについて</p> <p>3 津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言について</p> <p>4 その他</p>
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	1人
8 担当	<p>芸濃総合支所地域振興課地域振興担当</p> <p>電話番号 059-266-2510</p> <p>E-MAIL 266-2510@city.tsu.lg.jp</p>

・議事の内容 下記のとおり

1 あいさつ

地域振興課長

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして有難うございます。定刻になりましたので、ただ今から第4回芸濃地区地域審議会を開催いたします。それでは事項書に基づきまして、会議を進めさせていただきますが、事項に入る前に、事務局よりご報告を申し上げます。本日の会議の出席委員は委員15名中15名でございます。地域審議会の設置に関する協議第9条4項の規定にあります、委員の2分の1以上の出席を頂いておりますので本会議は成立を致します。また本会議は公開で行うものとなっておりますので、津市地域審議会運営規則、第5条の規定により、会議録を作成し、ホームページ上で公開されますのでご了承ください。発言者の氏名も公表させていただきますのでご了解を頂きたいと思っております。

本日、傍聴者は一名おみえになっておりますのであわせて報告をさせていただきます。

それでは地域審議会の設置に関する協議の第9条5項の規定により、会長が会議の議長となると定められておりますので、鈴木会長、よろしく願いいたします。

鈴木会長

皆さん、改めましておはようございます。おはようと言うのも過去始まって以来、今日初めて午前中の会議でございます。おはようを使わせてもらうのも今日だけでございます。大変残暑の厳しい中、またお忙しい中、皆さん方お集まりいただきまして有難うございます。総計審の話の続きやと思っておりますけども、今日は市長さんもおみえでございますので、後ほど意見交換をしていただきたいと思います。

早速議事に入らせていただきます。まず議事に入る前に議事録署名者の指名を私の方からさせていただきます。

本日は小林小代子委員さんと佐野憲夫委員さんよろしくお願ひします。

また、会議は全文記録となっておりますので、ご発言の際には、挙手をしていただき、ご発言をいただきますようお願いいたします。

本日は前葉市長に出席をいただいておりますので、一言市長、ご挨拶をお願いいたします。

市長

皆さん、おはようございます。4月13日だったと思いますが、地域審議会の発足、委員に委嘱をさせていただきました後、芸濃の地域審議会の皆様には大変ご熱心にご議論いただいておりますことに対しましてまず厚く御礼を申し上げます。また4月から芸濃小学校スタートをいたしました。安西の方の篠原さん、雲林院の方の片岡さん、それぞれ小学校の大再編に向けて様々なご準備をいただいた上で大変辛いことではございましたけども、安西小学校、雲林院小学校の開校式を挙行していただきました。本当に子どもたちのことを思って、そのこと一点で地域がまとまってこういう形での新しい芸濃小学校のスタートということを支えていただいたことに心から本当に敬意を表します。有難うございます。お陰さまで、子ども達、最初報告を受けておりますが、溶け込み具合が最初はちょっとぎこちなかったというふう聞いておりますが、だんだん子ども達のことのでございますので慣れてきて今はもうバスの通学の時にバスの中で歌を歌ったり

とか楽しそうに通学をしていただいているということで一学期無事そういうことで終わることが出来ましたので、芸濃小学校についてはお陰さまでと申しますか、子ども達のために上手くいっているのじゃないかなと思っております。一方で明小学校の校長が急死するということがございまして、この点については、佐野さんの地元ですね、大変ご心配をおかけしておりますして申し訳ございません。これも新しい体制で一日も早く子ども達が安心して動揺なく通学出来るような体制づくりを教育委員会の方で整えておりますので、地元で何かお気づきのことがございましたらどうぞ気軽にお話をいただければというふうに思っておりますのでよろしくお願いをいたします。地域審議会の委員から濱野さんですか、ここからは総合計画審議会委員にかねてご就任いただいておりますけれども、4月13日に地域審議会をスタートして以降、総計審はそのあとスタートしておりますので、その時に私がお手元の青い紙ですが、7つのことをお願いをしました。私が期待をしておるということでの後期基本計画策定に向けて視点7つでございまして。若干簡単にご説明申し上げますと1番が基本構想を尊重した後期基本計画ということで、これは合併後10年間でやらなければいけないことを基本に津市総合計画、平成20年の4月にスタートしておりますが、これを後半5年間でございまして、当然のことながら総合計画をしっかりと実現していくと、そういう立場で私も選挙でも公約もいたしましたし、それはある種常識的なことで基本構想というのは議会の議決を経て、10年間の方向性として定めてあることとございまして、その基本構想の基本的には考え方の元でやらなければいけないと当り前のことではございまして、そのことを確認したうえで大切なことは2番目ですね、合併後10年でこういうまちづくりをしようね、あるいはこういうふうに各地域で課題を解決しようねとなっていたこと、これを今の時点でどこまで出来ているのかということを確認をして、まだ出来てないことをしっかりとこれからやっていかなあかんということはこの時点でしっかりと見直していただきたいということでございまして。ただ、そうは言っても③④がございまして、例えば防災と言うか、去年の3月11日というのは当然総合計画を作る前には分からなかったことなんで、そういう防災、災害に強いまちづくりでありますとか、あるいは地域の課題ですね、経済環境が大きく変わってきているとか地域の企業さんの状況もどんどん変わってきている。あるいはある程度予想していたこととはいえ、高齢化どんどん進んでおる、そういうのを踏まえてどういうことを考えていくかということの時代の要請の対応みたいなもの、それから地域で生じているそれぞれの課題への対応、これもしっかりとやらないかんということでございまして。5番目に合併特例債の5年延長とありますのは、元々18年から27年までということで合併特例債が10年間の予定だったのですが、東日本大震災によりまして行政のいろいろな施策事業の展開が予定通りにいってないところが被災地以外にもございまして、被災地のみならず被災地以外でも5年間延長をするということになりました。従って平成28年以降のところも合併特例債が5年間使えるということになっておりまして、これをしっかりと見据えた対応をしなければいけない。これは、見据えたと書きましたのは、この視点をお示しした時点ではまだ国会で法律が通っていなかったのですが、6月に通りましたので、合併特例債が5年延長がすでに決まっております。そして6番、国・県事業との連携ということ、これはあ

まり市の計画ではあまりダイレクトに書かないのですが、中勢バイパス一つを取ってみても国の事業、それからそれに関連する県の事業との関連が非常に津市のまちづくりには大きいございますので、そういうことをあえて書かせていただきました。そして市民の皆さんのご意見をしっかり伺ってまちづくりを進めていくということ。この7つぐらいをポイントとして掲げました。芸濃地域のまちづくりについては、当然これまで地域審議会において様々なご議論をいただいておりますけれども、こういうことも含めましてこの時点で地域審議会から総合計画審議会の方にご意見を、芸濃地域の考え方として出していただいて、それを総合計画審議会の方でしっかりと捉えて、踏まえて計画に盛り込んでいく、こういうふうにしていただければというふうに思っておりますので、今日は意思形成過程のところで私、地域審議会にお邪魔しております。この際、前葉に確認しておかなあかんことがあるんやけどなあとか、あるいは審議委員の皆さん同志で少し方向性、もうちょっと詰めておきたいけどなあというようなことを中心に今日のご議論をいただきまして、そして総合計画の方に上手く、芸濃地域の在り方を反映していただくように是非お願いをしたいと思います。大変朝からお忙しいところお時間をいただきまして有難うございます。本日はよろしく願い申し上げます。

2 地域が目指すまちづくりについて

鈴木会長

有難うございました。それでは事項書に基づき、地域が目指すまちづくりとして、芸濃地域のまちづくりについて、それぞれの考えを述べていただきたいと思います。当審議会としましては、第2回地域審議会でも地域の課題を3つに絞り、協議・検討していくと決まりました。それを基に一時間という時間の制約もありますが、私が指名をいたしますので、一人2～3分程度で、ご発言をいただきますようお願いいたします。

一通り発言が終わった後、市長さんと芸濃地域が目指すまちづくりを意見交換したいと思います。

なお個々の要望に関しては、控えていただきたいと思います。事前に発言者の申告をいただいておりますので、それに基づきまして順番を決めさせていただきます。

まず一番最初に片岡福生委員発言して下さい。

片岡(福)委員

片岡福生でございます。一番バッターということで揚ってますけど、私が芸濃町のまちづくりについてどのように今思っているかと言いますと、基本的にまちづくりというのは、まちづくりの底辺は住民だなと思っています。行政に頼るのじゃなく自分達が住むまち、自分達で作っていかうというのが基本かなというふうに考えてます。ただしその中で行政しか出来ない施策がたくさんありますので、例えば道路整備だとか河川整備だとか公共施設の施設を作るとかそういうものは当然住民では出来ませんので、そのへんは行政の方にいろいろと考えてやっていただきたいと思いますという考えがあります。その中で私が今一番課題に考えているのは過疎化ということで、この同じ芸濃町の中でも地域によっては非常に人口が減っている、過疎化に近いような、減っているところもあれば、棕本地区のようにほぼ横並び若しくは若干上向いている人口が減らない地域もあれば、河内地区とか雲林院地区、安西、明地区のようにだんだん減少していく。これは少子化

という問題もあるのですが、ただ私が考えるのにはそういう問題じゃなく、住み良いところに人が集まっていく、せつかく良い自然、川があり、山があり、田園があり自然がたくさんあって良い所があるにも関わらず自分達の住み良い環境のところに人が集まっていく、そういう現象があるのかなあという気がします。そのへんをやっぱし打開するには、少しの人が残っていただいたり、人が集まってくるようなそういう施策をつくるべきやないかなと、そのためには市長にお願いしたいのは、別にひがみでも何でもありませんけど、私達住民から見ると旧津市の中に公共施設にしるそういう設備にしる、何か旧津市の中に大きく出来上っていくのであってその周りにある例えば芸濃町だとか美杉だとか、美里だとか白山だとか、ああいうところにあまり事業が起こらないような気がするのです。それはやっかみかも知れないのですが、そういう感じがします。例えばこれから後期に入っていったって5ヶ年の計画のある中でそういう事業も当然計画されると思うのですが、それを旧津市以外の合併前の旧町村ですね、そういうところにも一つそういう物を作っていただいて万弁に人が生活出来る、人が集まるような環境づくりを行政側がしていただきたいなという考えがあります。芸濃町は芸濃インターという素晴らしい交通網の発達したインターがありますので、それを利用したそういう施設を作る場合は、当然津市内の、旧津市内の町の中やなしにやっぱり芸濃インターの近いところの方が県外の人もたくさん来てくれるだろうし、そういうことから考えると当然、合併前の旧町村に作るのはなんら問題がないかなという気がいたしますので、それも考えて今後計画の中でも考慮していただきたいなという気持ちはあります。以上です。

鈴木会長 有難うございました。次に片岡正春委員。

片岡(正)委員 皆さん、おはようございます。さっき市長様のご挨拶の中にもありました統合の問題ですが、3校が統合いたしまして芸濃小学校という学校が発足いたしました。残された安西、雲林院地区の学校の今後の利用を支所長さん初め我々検討しております。今会議中ではございますが、今後この2校の学校の施策、今後の方法を検討していきたいということの観点からこれも津市の総合計画の中に盛り込んでいただきたいなと思っております。それともう一点、津市総合計画の後期の方の中にまちづくり施策体験、美しい環境と共生するまちづくりの中の一環で、先だつての津市の総合計画審議会の話しでもございました芸濃町の安濃川の河川、これが非常に環境的に著しく悪くなってきておるといのは、一つは安濃ダムの問題の件もあるんですが、今、河川を見ていただくとよく分かるように従来子供たちが川遊びをしていた光景が今は全然見なくなりました。綺麗な川も見えなくなり、そして河床が上がってくるということで安心・安全な町づくりの一環としても河床が上がってくることによって水害等の被害が高じるということが現象になるんじゃないかなと思っておりますので、今後河川整備の問題についても環境のまちづくりまたは安心・安全のまちづくりの一環として進めていきなないなと思っておりますので、我々も他の組織団体を通じて県当局の方へはお願い、要望書をしておりますが、市といたしましても今後このような方向でおすすめしていきたいなと思っておりますので、今後どうぞよろしく願いいたします。有難うございました。

鈴木会長 有難うございました。次に小林小代子委員どうぞ。

小林委員 小林と申します。よろしくお願ひいたします。私は前任者の2人と違って今の現状の方で話をさせていただきたいと思ひます。芸濃町に国の登録有形文化財になりました明村役場庁舎とその隣にあります幽霊の片袖の桜の普門寺など芸濃町には名所、旧跡がたくさんございます。芸濃ふるさとガイド会さんがいろいろ活躍をしていただいております。またそして芸濃クリスマス、住民が一体となったイベントを住民のパワーで盛り上げています。芸濃まちづくり協議会も5つの部門に分かれてより良い芸濃町のまちづくりに力を合わせています。今後より一層の輝く芸濃のまちづくりにご協力いただければ幸いと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

鈴木会長 有難うございました。次に篠原義生委員。

篠原委員 篠原です。変な話ですけど、この日曜日、19日でしたか、区の行事で道作り作業にあたっておりました。そうしたらある人が僕に道を尋ねてもらったんですけど、地図を持って来て私に見せてもらったんですけど、安濃川はどこですかと僕に尋ねられて、ちょうど堤防から百メートルぐらい離れた所でしたけど、そこですとよう言えなかったんですわ。まったく川の様相はないです。私とこの岡本の部落から見てそれで川の安濃川、指示はした地図なんですけども、その方にとっては目安に川をよう見つけなかったのですね。それで安濃川の存在が全然ないのやなあと思つて。片岡さんと同じように安濃川の河床の整備とか堤防のまったく川の様相がありません。私、東の橋から来て覗いて下さいとその子に言ったんですけど、そういう状態でやっぱり川の存在を早急にしてもらえたらと思ひます。

鈴木会長 有難うございました。次に高士稔委員。

高士委員 高士です。よろしくお願ひします。これとつて言うことではないかも知れませんが、先程から言われている片岡福生さんと同じ意見で高齢化という部分で私ら世代、40代、50代の方々はかなり芸濃町に存在しますので何とか今の70代、80代の人を背負っていける力は持っていると思ひますが、それを考えると私が80ぐらいになった時に誰がとつて、どんどん減つていく状態で今は何とか芸濃町守られてるのかなと、私らが70代、80代、失礼ですけども敬老会に入った時分にどうなんやろうと、今うちの親父、お袋もやっぱり80代になってきて、よぼよぼ状態ですわ。結局、私が面倒みていかなければならないということをやつておるのですが、最終的にはね。そのあと私、息子がおるのですが、自由に動いてます。芸濃町におるんか、他へ行くとつて言われても止めることも出来やん、そういう時に芸濃町におつて欲しいなと思ひ部分で、今何が出来るのかなということややはり活性化させたいなということ私の範囲内で、私ら世代が何とかやつていかなあかんのかなあというふうな体が動いておるわけですけども、ボランティアとかいろいろやらせていただいておりますけども、その次世代の人たちがそれを見て一緒のようによつていけるか、やつてくれるかどうかという部分が今

不安要素でもあるし、これが出て行った人たちに芸濃町にいっぱい子供さんみえても、子供さんが出て行って年寄り夫婦で年金生活されている方がかなりみえるわけですね。その人らに何かあったら子供たちはとんで来るのやろうけども、何かあってからではもう何とも出来ない。頼るところは隣近所の人たちとか若い人達になってくると思うのですけども、そういうとこのこれから先が見えてないという部分でやっばし活性化していかなく部分はいろんなことで呼び戻すなり、子どもを守っていくなり、子ども達と接してどういうふうを考えていくかということを考えていきたいというふうに私は思っておりますのですけども、この間も一番は、農産物の所でお年寄りが夫婦の奥さんがブレーキとアクセルと間違えて川原の人が亡くなったんですね。ここらへの交通機関というのは、もうほとんどバスぐらいしかないので電車の通る所は駅があって栄えてますけども、バスの運行もあるのですけども、ほとんどが一時間に一本という状況で、コミュニティバスも走っているのですが、それも本数が限られている。その分年寄りがかなりみえてどう行くのと言うと車しかないわけですね。うちのお爺さんもものすごく歯がゆいのですけどももう80代になってもまだ車に乗っているわけですね。キーを取り上げると私が仕事を持っていますので、女房も仕事を持っていますね、誰かが送り迎えせんらんのかという出来ませんわ、はっきり言って。やっばしキーを取り上げるのも難しいし、病院とかも車で行かんらんとという部分で、この間もお袋の方はキーは車には乗るなど言ったんです、車をぶつけましたので同じですね。アクセルとブレーキと間違えて突っ込んだんですけども、2回程突っ込んだんですが。親父に任せておいてもいつなん時親父もそういうことが起こるかも分からない。物に当たっている間は良いけども人をやってしまったら終わりやという話はしておるのですけども、そのとこでキーを取り上げて良いものかどうかという迷いもあるし、難しいです。そういう家庭たくさんあると思うのですよね。もうちょっと交通機関で年寄りに充実したのが出来ないのかなと、年金生活でタクシーに乗れといたらここから津へ行くのに5千、7千かかるわけですね。年金生活されているお年寄りに7千、8千円往復取られて1万円取られて病院へ行くんかと言われたらそれは辛いと思うし、そういう部分で何とか人がおらん、乗る人がおらんで民営の力を借りても経営はなっていないかと言われたらそれまでやし、その歯がゆさをかなり最近感じておりますので、何とかもうちょっと活性化出来ないかなというふうには片岡福生さんの言われるのと一致する部分でお願いしていきたいと思っております。長々とすみませんでした。

鈴木会長 有難うございました。次に中村市江委員。

中村委員 中村でございます。津市の基本計画の中に安全で安心して暮らせるまちづくりの中の3番目に福祉関係の項目がありますけれども、これはどれだけ達成されているのかという感じは受けたのですけども、と言うのは、先程から出ておりますように少子高齢化が進んでいます。小学校が統合されて一つになりました。3校が一つの小学校になったということはそれだけ子供が少なくなった。それに加えて高齢化の数が大きくなっている。敬老会の招待者の方達の数でも70歳以上が1,936人の招待数があるわけで

すね。それは寝たきりもいろいろ混ざってはおりますけれども、70歳以上でも1,936人この芸濃町にいる、2千人近い高齢者がいる。高齢者というのは、65歳以上が高齢者、自分ももうすぐ一年もすれば後期高齢者の仲間入り、そうなった時に元気でまだ仕事の出来る高齢者、そういう方達に対して少しでも働くという、シルバー人材センターに登録をして下さいというのがあるんですけど、それは芸濃町にないんです。電話で登録するのか遠くへ行ってするのかそれは分かりませんが、私は、シルバー人材センターの登録者は造園業か草取りか、そんな仕事なのかと思っておったんですけども、ちょっとお話を聞くとそういうことではない、短期でここにずっと手伝いの仕事をしていただきたい。それには少しばかり賃金を出しましょうとか、またそこへぎゅーとらが来てまた店がオープンしますが、買い物の籠を整理する、買い物の車を整理する、そんなの仕事に入るのかな。そうしたら時間、幾らぐらいの賃金でこれぐらいの期間ならいけるかなといった元気な高齢者に対してお仕事があげられるならば少しでもその人に潤いがあって、そういう人が元気に過ごせる、生き生きと過ごせる。高齢者福祉の充実のために関連しないのかなというふうにこの基本計画を見て思ったわけなんです、それを地区社協とか社協だとかの窓口でこういった仕事でこんなことが出来ますよ、これぐらいの賃金でこれぐらいの期間で働くこと出来るのですが如何ですかという声掛けというか、そういう情報を発信していただく、そんなのは出来ないのだろうか。ハローワークなんかはパートはこんな仕事を探している、フリーの人はこんな仕事を、いっぱいハローワークの方からは情報発信しているのですが、こういう小さなところで高齢者が少しの期間でも働ける、そういう情報の発信があって、そうしたらもっと元気に活性されていくかなとそういうふうにもふっと思ったんですが、いかがでしょうか。お願いします。

鈴木会長 有難うございました。続きまして濱野章委員。

濱野委員 濱野でございます。今隣にみえる中村さんと敬老会のことで話をしました。高齢者の方々の話を2人でしたとこなんです、それは今中村さんがお話をされましたけれども、芸濃町で直面する問題はやはりまちで住みやすい中でももちろん経済の問題があります。買い物の問題とか働く場所、そんなにも不自由はしてないですけど意外な要素の中で若い世代をみると自然の環境の良さであったり教育の良さであったりが2つになってきます。特にその中で芸濃町はその中の2つの問題がちょうど直面する問題にもなっています。例えば小学校は、今回明小学校は合併されませんが芸濃小学校の問題があります。併せて親御さんらの私らの子供達の世代の人と話をしておくと幼稚園はどうしてくれるのかなという声があったりします。私も車で見ておると幼稚園だけ残ったもので給食を車で運んでますけど、本当に私らも食品を仕事を扱っているのも暑いものも冷たいものも一緒につっこんだりしておいて効率や何かを考えると地域、明小学校と明幼稚園が残ったもので難しい点がありますけども、幼稚園をどうするか。それから小学校の跡地の問題で、私も美杉のイベントに行きますと会場が残ってますけど、これ何の跡地やという小学校の跡地ということですけど、非常に跡地の問題、防災のからみがあ

るもので簡単にはいきませんが、本当に面白いなと思ったのは尾鷲の塩工房へ行った時ですけど、あれ小学校の跡地でした。ちょうどその中の地域の防災の拠点も残して、グラウンドも残して校舎を全部塩工房の施設が入れてありましたけれど、そのようにそろそろ地域の自治会の方々や声を聞いて小学校の跡地の問題もどうするか、教育の問題が一つ、もう一つは、この地域を活かすには観光のような気がします。観光でもこの間も青年会議所の人、若い人達と話をしていたんですけど去年、青年会議所の人らがイベントをしようと思って芸濃と白山のどっちかにしようかという話になりましたけど芸濃の中で向こうも見に来たんですけど、落合の郷の使い方がもう少し使用緩和いただけると使えたんですけど、あそこで仮眠も出来ないみたいなかたちになってますけど、観光で活かすのならああいう施設を上手く利用出来る形にしていきたい。地域の問題としては、教育の問題があり観光の問題について、なかなか私達で出来ない点もありますので行政の方に一度聞いてみたいと思います。以上です。

鈴木会長

有難うございました。遅くなりました、吉田幸男委員。

吉田委員

芸濃町の発展ということで視点も含めて2点強調させてもらいたいと思います。過疎地という一方、雲林院小学校、安西小学校の関係がありますけれども芸濃町全体で見れば河芸と芸濃だけ津市の中で人口が増えておる、この事実を直目して欲しいと思うのですね。と言うのは芸濃町は住み良い土地、そういうふうに思います。従って住宅地開発、これは民営を導入するかあるいは官としてやっていくかは別にしてもこれは積極的にやっていったら芸濃町は住み良い町ですから私は人口が増えていく、そういうふうになっていくというふうに思うのです。もう一つはリニアの問題です。これはチャンスですから、芸濃町は北の玄関口として必ず私は発展するというふうに思います。昨日も商工会の会議があったんですけども、亀山駅の停車に向けて津市長として最大限のいわゆる力を発揮してもらいたい。それが場合によっては、これから地域的産業の発展の拠点としてこの北の玄関口の芸濃町が発展していく道ではないかなと、こういうふうに思います。もう一つはサイエンス、市長がトップセールスでかなり努力されておりますこと敬意を表します。がしかし最近聞いたことですけども芸濃町のSという会社がサイエンスへ行かれると、これは増築になるか移転になるかは分かりませんが同じ津市内で芸濃町にあったものをサイエンスへ持っていくというだけでは取り合いだけになるのではないのでしょうか。そうではなくてもっともっと市長も県外から津市へ持ってくる、津市は住み良い町ですからそういう努力をお願いしたいということと場合によっては、あのサイエンスシティは用地取得の2割を返還する優遇制度がありますね。そしたら芸濃町のこの地域へ2割の優遇制度を設けたら私はもっと芸濃町に工場を誘致出来るのが出来るのではないかと、それはリニアを目前に控えておるということも展望したら、一番良いことではないかというふうに思います。最後にユニバーサルデザインのまちづくり、香良洲にかなり力を入れてみえるということは分かりますけれども芸濃町は高齢化社会を迎えるわけですから、芸濃町にもテンポを早めてもらいたい。そして私が経験したことですけどもある地域の段差をなくしてくれということで産業課へ自治会として

も要望しましたが、津の道路維持管理課はOKと言うのやけども北工事事務所はあかんと、行政がバラバラなんですね。もう少し統一してもらいたいということを要望として終わります。よろしく願いいたします。

鈴木会長 有難うございました。次に岡本陽子委員。

岡本委員 失礼いたします。私、毎日大阪の茨木の方に通っています。いつも芸濃町との格差というのを痛感しているわけです。是非市長さんをお願いしたいことは、やっぱり一つ一つそれぞれのイベント、行事も素晴らしいんですが、点と線と面、これの中でこれからのプロジェクトを考えていかんならんと違うのやろかと思えます。一つは、ここにいろいろかがやきプログラムの中で例えばクリスマスの問題、あるいは龍王桜マラソンの問題それぞれありますが、単発ですね、単発です。これを面に生かすようにするにはどうしたら良いのだろうかというふうを考えるわけなんです。一つは、そのためには線となると道路、先程言われた、人々の行きかう物流、そういうふうな流れ、それを考えていかなあかんというふうに思うのです。先程から色々言われていますけども芸濃町は残念ながら大きな道路の中で通過点にすぎない。ここで停まるということが本当にならぬというのは、そういうふうなイベントがその時のイベントで終わっている。例えば鈴鹿なら自動車の町という形でありますよね、それが継続的に出来るようなことが出来ないだろうか。平氏の会もありますから落合の郷を初めここは歴史的な遺物があります。だからそれについてでももうちょっと単発的なじゃなくって津市あるいはその他の亀山市との融合の中でやはりこれからは考えていかんならんと違うかなというふうに考えます。例えば龍王桜マラソンは年々盛んになって素晴らしいのですが、あれが4月だけで前に濱野さんが秋は秋でウォーキングとかああいうふうなものはどうだろうと、ミニイベントみたいなかたちで大変ボランティアの人には申し訳ないのですが、それが人々の頭の意識に残るような継続的なあるいはマラソン大会に行くための練習というかね、月一回の、そういうふうなかたちでそれに向けていく。なでしこジャパンじゃないですけど神戸へ行ったらなでしこですよ。ああいうふうな人々に残るような、先程も私言いましたけど歴史の町やったら例えば、てんでんこ、この間、津波で皆が逃げるのやったらあれぐらいのことを子供たちが歴史のことも語り部となっていけるような、そういうふうな誰もが芸濃町の良さを体得出来るような、そういうふうな量的な動きというのもこれから考えていかなければ、具体性はちょっと欠けますけども教育なり、有望した行政の中での企画、イベント、それもやはり私はこれから望んでいきたい。点と面と線をこれから考えていくということが私の提案とさせていただきます。市長さん、どうぞお忙しいと思いますが、いろいろと小さな芸濃地区にも私達頑張って生きておりますのでよろしくお取り計らいいただきますようお願いいたします。 以上です。

鈴木会長 有難うございました。最後に私から一言だけお願いします。何回か問題になっております旧明村役場、私の近所のところでございますけども、もう合併してから相当になりますけども進展はちっともございません。そろそろと予算の組み立てをしていただけない

いかなと先立つものは予算ですので、いっぺんに一億円という予算は大変だと思いますので、積立という格好で予算の積立をお願い出来ないかなということをお願いしたいと思います。もう一つ人口減少につきましては、合併前の旧津市ですな、県庁の所在地で全国ワースト2で何で津市が人口が少なかったかというのは、議員さんあるいは職員さんでもいろいろと反省はしてもらっておるとは思いますけれども、それを原点に考えて今後もう少し人口が津市も何十万というような県庁の所在地として恥ずかしくないような都市にしていただければなと思っております。私は以上でございます。

鈴木会長

それでは市長さん、お願いをいたします。

市長

それぞれ非常に示唆に富んだいろいろご指摘がありましたので、ああなるほどなど思いながら聞かせていただきました。大きく言うならこれからの行政というか、公的などころに何を皆さんのお立場からするとさせるのかということプライオリティーをはっきりと示すべき時期だろうというふうに思いますから、そういうことをおやりになるのは地域審議会が、もっとも地域審議会のような組織、地域審議会のようなお立場とかが言いやすいお立場だと思いますので、遠慮なく芸濃町としては、こういうような考え方なんだということを書いていただければ良いと思うのですよね。それを今までの過去の時代は、平成の初め頃は、ふるさと創生とか言われていた頃はいろんな箱物をどんどん作って、そして投資をしていた時代があったわけで、その時にはまだ都市計画がゆるやかで芸濃インターのこっち側は、棕本寄り全部高野尾の人らから見ると垂涎的なんですよね、羨ましくて羨ましくてしょうがないわけです。商工会が濱野さんとこと別なので是非、北商工会の議論を聞いてもらおうと面白いと思うのです。昨日、北商工会でお話をきてきて本当に羨ましいということで、それはそれで芸濃町は、安濃の施策がある種、当たったその結果、吉田さん最後に言われたように人口が芸濃町は増えて、今も増えているのですよね、芸濃町エリアは。そういうことで当たった部分もいろいろあると。それから例えば子育て支援センターとかは芸濃の非常に先進的な取組が上手いこといった部分でしょうし、この建物も総合文化センターも立派なかたちで箱を先に作っていただいたということで良かったところもあります。ただ温泉掘ったり、それをタンクローリーで運んだりしてみえるのはどうかなと私は思いましたが、そういうのも前の市長の時に一応バランスを見てきちっと判断をされていていっているという状況でありますから、ここまでは良くも悪くもそれはこれまでの行政で皆さんの税負担の元でそれなりの事が実現してきた。本当に百点だったかどうかということは評価をしていただければ良いと思います。そして今、ここから先なんです、例えばいろんな芽出しを今もしていただいたと思うのですよね。例えば福祉ということを重点に置いた中村さん言われていたような高齢者が生き生きと働けるまちを作ろうやないかということもプライオリティーに置いておく一つだろうと思いますし、高士さんが言われたように親が車を免許証を返上しても良いと、それをそういう手立てがきちとなされておる町にしようやないかというのも一つのプライオリティー、お金のかけ方です、箱物を作る代わりにそういうところへお金をかけていこうやないかということ、これは地方分権の時代ですか

ら市長のところでかなり判断が出来るようになってるんですよ。そういう工夫のある町を作っていこうというのも一つですし、鈴木会長さんが最後に言われたように町の昔の物を大切にしていけるのも大事な事なので、一億かかってでも明の前の役場をきちっと整備するのやと、これを町の誇りとしてこれからも大事に明でしていくのやと、芸濃全体でそういうことをしていくんやという、これも一つのプライオリティーの置きどころやと思います。まさにエゴイスティックにと言ったらなんですけど、芸濃町としては、これがプライオリティーなんやということバシッと出してもらったら良いと思います。ちょっと私が過去のことで不思議なのは、今も隣とメモをやり取りしておってまだ分かんのは、何で安西小学校や雲林院小学校を耐震改修を平成21年、22年にしてるのかということ。これは考えてみればもう芸濃小学校の話が進みつつ右手で左手で今の校舎、屋内体育館を改修しているんですよ。これはどういうことか言うのは多分、想像すればこの小学校が廃校になったとしてもその跡をきちっと地域で使っていくんやと言う思いをもっておったんだろうと思うのです。そうしたらじゃ、これどうやって地域で使っていくかということを早め早めに出していってもらったら良いと思うのですよ。確かに美杉なんかは、7つの小学校を2つにして最後1つにしましたよね。統合されたあとの小学校はどんどんいろんな新しい公共施設に変わって行って、早かったというものあるけど、どんどんまだお金を投資出来た時代にそうやっていたのがあります。最後の美杉東小学校は今年設計中、来年事業になりますけど、そこに総合庁舎が出来るのです。もう美杉村役場は非常に古い状態でしたから、今だましましで使ってますけど、もう駄目なんでこれを壊して来年、美杉東小学校のところに総合庁舎を建てるとということ、これが庁舎としては最後かな、もめている久居が最後まで残りましたが、美杉がほぼこれで仕上げ、一志とか白山は全部終わりました。そういう状態なんですね。面白いことに北側は庁舎は割合とここもそうですし河芸もそうですし美里もそうですし、割合と新しい。南はほとんどみんな庁舎は手を付けずに合併してるのです。その分何をやっておったか、例えば学校とかを先にやっているのです。そんなことでありますので例えば学校の跡地のことをやる、幼保の話出ましたね、土地のことでゴタゴタしているのはありましたけども、一方で椋本の幼稚園や保育園の所は非常に子どもが増えているような状態ですよ。これをどうするのと言うことは、今、幼保一元化の議論をオープンデスカッションでやってみました。この日曜日もやってみましたけどもそういう枠組みの話はどんどん進めてますので、芸濃町の幼稚園や保育園はどうするかという話をどんどん地域から声を上げていただければ良いと思うのです。今まではある種、声を上げたらそれは芸濃町の役場のところで安西と雲林院と河内と明と椋本のバランスというようなことを芸濃町の役場は見ておったかもしれないですけど、今や津市は芸濃地域ではこういうまちづくり、河芸ではこういうまちづくりという、そういう大きな方向性を示していかないかん時ですので、是非、地域でこれが優先順位高いのやという声をまとめてというのはちょっと言い過ぎですが、そういう色を出していただくとより私はやり易い。芸濃地域は皆さん、こういうことを特に言っておられますよということを書いていただくとやりやすい。この前知事と一対一対談を8月の2日の日にやった時に2つの話をしました。1つは三重武道館、今整備中の津インターのそばの体育館に移設、移転にしましょう。

三重武道館は県と市が折半で運営してきました。そのスタイルをそのまま引き継ぎましょうということをお願いした、それはこれで話がつきました。もう1つテーマを上げたのは、香良洲橋なんですよ、香良洲の三角州に3つの橋が掛かっていますが、津香良洲大橋、香良洲大橋と香良洲橋の3つが掛かっているのですね。香良洲橋というのが、一番古いのです。この橋をとにかく高い所へ香良洲から逃げるためには一番最短距離の橋なんですよ。普段は伊倉津の方へ渡ったり嬉野、三雲の方へ渡ったりする、橋の方がよく使うのですけども、高茶屋の方へ向かう橋は、普段はあまり使わないのですけども、実は災害の時に一番使う橋なんです。香良洲としてはこれなんやと皆さんがそうおっしゃってることであれば、みんなが少々今までの優先順位に仮に県道なんですわ。県道で低いとしても県にこれ言おうかという形でバーと言えるわけです。というふうに私の場合は各地域のお声をしっかりと掴まえてそして話をさせていただいてますので、どうぞ遠慮せんと言っていたらというふうに思うのです。お話した折に、また個別にもありますが、あと1、2個別の話が、小林さんの言われたソフトの話は非常に素敵な話で、これからも一緒に応援させていただきます。片岡さんと篠原さんが言われた安濃川の河川管理、ずっと私も県庁にいつも物を言っているのですけども、あるいは安濃ダムの災害の時の放流の管理もおかしなことやるもんですから、ワーと物言ったら最近良くなったんです。そんなこともありますのでこれも県に具体的に安濃川のどこをどういうふうにしてもらいたいかなんかというのを言いますのでどうぞおっしゃって下さい。それから中村さんの社協でそういうことをもうちょっと企画してもらって社協も正直言ってあんまり新しいことしてみえないような気がします。もっと新しいことしてもらったら良い。そのためには今までやっておられることでもうええかなんかと思うことは止めて新しいことに切り替えてもらわなあかんと思うのです。地区社協一番やり易いと思いますから、地区社協にどんどん中村さん好きなように、社協全体やと田中彌さんはこの近く、高野尾ですから芸濃のことよう分かってますから、田中さんも慎重な人ですから今まであまり思い切った変革をやってないけど、私、けしかけますので敬老会で何べんでも20回位会いますから、毎回言いますから。それからリニアはその通りなんで、リニアのお話と岡本さんが言われた亀山と点と線と面、亀山のお話ね、このあたりは鈴鹿、亀山と私で今度ブロック会議みたいなのをやって知事と4人で話をする機会が11月か10月にありますし、そういう機会を通じて話をします。確かに亀山とも連携しては非常に重要ですねと思いました。漏れているところもありますけども駆け足で申し上げました。今のに対してあとあれば何か教えて下さい。

鈴木会長

市長さん、有難うございました。

もうちょっと時間残っていますので意見のまだ出し忘れた方とかありましたらどうぞ。

市長

どうぞご遠慮なく。

鈴木会長

いかがですか。発言されなかった方も何かあれば。岡本委員。

岡本委員 貴重ないろんな良いお話を市長さんから伺いましたが、やはりこの中で皆さんの要望もありますが、道路ですね。道路の物流でも何でもこれからの発展性を考えると例えリニアが来たって亀山に大きな道が無い、そこへ行く道が、津市だけの問題じゃないと思いますが、その点をお働きをしていただきたいなというふうに私思います。

市長 要は私とか市民の皆さんのお立場、私の立場も実はそうなんですけど、ほおっておく、任せておくと役所の中の役所の理屈でサボっておると違いますよ、着々と予定通りのことを順番にやっていくんですよ。例えば芸濃町交通事故多いですよ。よう起こるやないですか。それを芸濃の場合は、交通事故を少なくする、アクセルとブレーキを踏み違えるのを何とかせんようにしてくれと言われてもこれはようせんけど、例えば具体的なこれ多分優先順位、まだ下の方かも知れんけども芸濃町としてはこれをせなあかんぞというふうにわあわあ言ってもらったらと思うのですわ。例えば工業団地のところから抜けてくる道路がつながっていないとか懸案になっていることがいろいろありますやんか。その加減で多少、何でもかんでもと言われてもまたそれはそれでまた言っておるなという感じで話になってしまうであかんと思うけど、きちっと絞ってこれはと言ってもらったら、そのために現地で実力派の支所長がおりますからこの人が受け止めると市役所の中走り回って上手いこといかに全部、僕のところへ来てくれますので大丈夫ですから支所長で。

鈴木会長 吉田委員。

吉田委員 吉田です。市長、小学校の建物、21年、22年に耐震化されたの分かりました。その後のされておるからどうするかは分かりますけど、そうすると安西も雲林院もあれは廃校ですか、閉校ですか。もう跡地は自由に建物も含めて自由に使うということになるのか、いや学校はそうはすぐには、例えば民間へ売るとか勝手に使うということは5年間ぐらいは出来ませんのやと、こういうことやというふうに僕は思っておったんですけど明日からでも使えますか。

市長 こういうことなんです。結局、それは絶対的にこうしなければいけないという規制はないです。だからこういうふうに活用しましょにということをもとまってくればそれは津市として決定すればそれで使えますし、もっと言えば一日も早く売ろにということであればそれはそういうふうに使っていきます。売った金で芸濃町のこれをやってくれという話で、それは芸濃の皆さんがそういうふうにおっしゃるのであればそれはそういうふう物事を決めていくことは出来ます。ですが、それは結局、私は地域の方々の本当に学校というのはとても大切な場所なんで長い長い歴史の想いの詰まった場所ですからそれを地域の皆さんの意向とは関係なく我々、こうしましょああしましょと言うふうなことをこちらから強烈に物を言うというのは控えたいというふうに思っております。

吉田委員 津市として近くの坂下という所は老人センターとかそういうところへ小学校の跡を使っただけです。津市としてそういうふうこれから高齢化社会を迎える中で、という意向もあれば、私は出した方が良くというふう思うのです。だから芸濃にあそこの利活用を任すということやなくて津市もあれば積極的にそこへ投資する、きて津市全体が活性化、そして芸濃町が活性化。そういう私は方向へ持って行って欲しいなというふう思います。

市長 そういうこともあるかも知れませんね。

吉田委員 もう一つだけ、この芸濃町、私は生まれた時から住んでないのでこちらへ来てよく分かったんですよ。歴史的に関とか亀山とかこの関係がすごく強かった。だからこの発展はそこを抜かしてはいかんと思うんですね。そうするとかつて関と亀山とのカシオペアの星座の名前の会があったんですよ。もう少し津市も市長さんも亀山との接点をもっと理解していただかんといかんのやないかと、力を入れていただきたいなというふう思います。それが面としての発展になると私は思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

鈴木会長 有難うございました。駒田とき委員。

駒田委員 駒田ときです。民生委員しているのですが、私の地域は本当で高齢者のお二人住まいがほとんどなんです。本当で市長さんをお願いなんです、息子達とか小さなこれから若者が働けるような企業の誘致を本当で芸濃町に限らず津市として本当で考えていただきたいなと思います。よろしくお願ひします。

市長 誘致のことで佐藤ライト工業さんの話が出ましたが、発表したので名前を出しますが、当然今の場所を椋本の場所は彼らにとっては拠点ですので、そこでもう手いっぱいではみ出しているのでサイエンスに用地を求めたということですので、直接はあそこを廃業するということはないです。

吉田委員 そうすると増築ということですか。

市長 増築です。むしろ関の方を私は亀山市さんとの関係ではあそこは睨まれてます。

吉田委員 そこへ働いておる人が辞めてかんならんとなるといかんもので増築であれば有難いことです。

鈴木会長 あとよろしいか。そろそろ時間も迫ってまいりましたので。山田委員。

山田委員 今日の議題として観光、教育、人口の主要な問題でお話をさせていただいたのですが

も、みんな観光だけとか教育だけとか人口だけとかいうような問題じゃなくって3つともみんな関連があって観光が発展してくれば人口も増えてくるという感じにつながりがあると思うのです。先程の市長さんのハード面の話が出ましたけども一時はハードを作るのはあまり良いことないような感じでいろいろか話がありましたけども、ハードも大切だと思うのですね。過大すぎるようなハードではちょっと問題やけども、ハードはハードで作っていただいて、それをいかにソフト面で活用していくかが問題、ここが問題やと思うのですね。そういう面で住民サイドでは出来ないことがありますよね、ハードの面でね。基盤的なことはやっぱしハードの方は行政の方でしていただかなくては出来ないかと思います。それをいかに住民の方はソフト面を活用していくかが問題やと思うのですね。これは観光とかそういう問題ですけどもそういうのが上手くいけば人口減少を止めるとかが出来ると思うのです。住民の最終的な思いとしましては、安心して住みやすい町、住める町が最終的やと思います。お金が儲かるとか産業が発展するとかは過程の問題で最終的には生まれ育ったとこで静かに安心して住めるというのが最終的な目的だと思うのですけども、これは去年の私の個人的な話しですけども、母親のこれ福祉の関係なんですけども、介護の申請をしたのですけども、結構認定されるのに時間がかかるのですね。結局間に合わなかったのです。3ヶ月ぐらいかかりましたね。その間にもう亡くなってしまったんですけど、そのへんを緊急を要する認定とか、行く人の認定とか多分あると思うんですけども、そのへんを見極めて改善していただければなどその時は思いました。本当に緊急を要して、そういうのを申請するというのは、もうどうしようもなくなってするわけでしょう。ちょっとあかんようになってきたからやろうかという場合とろいろかあるかと思います。そのへんをちょっと見極めていただきたいかな、いただきたいなと思います。結局認定が下りてきたのが、亡くなってからでした。そういうのがありましたので3ヶ月はちょっと長いんじゃないかなと思いましたので、そのへんは市の方の担当の方で検討いただきたいなと思います。

鈴木会長

山田さん有難うございました。そろそろ時間が迫ってまいりましたので、いろいろなご意見いただきましたけれどもこのへんで打ち切りたいと思います。

市長さん、最後に地域の目指すまちづくりについて一言お願い申し上げます。

市長

有難うございました。非常に率直に他方面にわたってご意見いただきまして有難うございました。今回の総合計画審議会への地域審議会の会長からの意見書とかお手紙とか、提言みたいなものですね、これはどうぞ芸濃地域はこういうようなことを思ってる、考えている、あるいはこういうふう到我々は我々の地域のことを認識しておって、従って方向性としてはこういうことは、合併前からあるいは合併後しばらくかけて出来てきたけど、まだまだこういうことはせないかん、残っている。あるいはこういうところに優先順位をおいてやりたいのや、やるべきやと思うというようなことを、どうぞあんまり綺麗な言葉じゃなくってもシャープに鋭敏に書いていただければというふうに思うのですよ。総計審の武田保雄会長と話をしましたけども、そういうふうにして欲しいと彼はおっしゃってます。地域からこれ、こういうことやということを出てきた

らそのまんまばかんともう総計にはめても良いというぐらいのことを言うておられますので、是非よろしくお願ひします。今日は貴重なお話をいただきまして有難うございました。頑張りますので引き続きよろしくお願ひします。

鈴木会長 有難うございました。これにて地域が目指すまちづくりについてを終わらせていただきます。

これで市長さんは、これで退席されます。どうも有難うございました。

休憩 午前10時42分

再開 午前10時48分

鈴木会長 それでは全員揃っていただきましたので、休憩前に引き続き会議を再開いたします。それでは、次の項に入ります。事項書の3 津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言についてですが、当審議会からは濱野委員、また津市自主防災協議会の代表として片岡正春委員が第3回の総合計画審議会に出席されていますのが、代表して濱野委員、何か報告等あればお願ひします。

濱野委員 ちょうどおみえですけれど津市の各地域からの声がありますけれど地域から地区割りやなしに横のつながりで今ちょうど話をしていますけども、一つは安全・安心のまちにしたらどうや、もう一つが豊かな文化とのまち、地域活性のまちづくりと各地域からも同じ様なのがあがってきますので、横のつながりで今2回話をしておりますので、その方向が9月に出る、今はその分科会をしておるところです。

鈴木会長 有難うございました。それでは、あらためまして事項書の3 津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言について事務局から説明をお願ひします。

3 津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言について

地域振興担当主幹 地域振興課駒田でございます。よろしくお願ひいたします。先日送付させていただきました津市総合計画後期基本計画策定に係る意見・提言についての案を、皆さんご持参いただいておりますでしょうか。ご持参いただいていない方みえますでしょうか。ないようですのでご説明させていただきたいと思ひます。前回の第3回の地域審議会で芸濃地域の課題ということで津市総合計画後期基本計画策定に向けた意見（案）をご確認いただきまして具体的な表現が漏れているのではないかの意見などいろいろいただひて協議いただきました。

そして、先日、各委員の皆さんからそれを訂正いたしまし、文書化したものを事前に配布させていただきました。本日はその意見・提言についてのご確認をしていただひたいと思ひていますのでよろしくお願ひいたします。

送付の際に添付しました通知にも書かせていただきましたとおり、後期基本計画の策定に係る意見・提言については、各地区地域審議会共通のスタイルで文書化し、地域審議会の意見・提言として提出をいたしまし。

地域の目標、課題を表し、更にみなさんに評価を頂きました地域かがやきプログラム事業を地域の施策としてまとめてあります。

まず、芸濃地域が目指す目標としまして、後期基本計画への明記を求め、次に、地域の課題を挙げ、地域課題への取り組みの必要性を書き、3つ目としまして最後に総合計画の中の重点プログラムであります、芸濃地域の取り組みである地域かがやきプログラム事業を挙げさせていただきまして、評価にもありましたように継続して実施できるようなスタイルでまとめてあります。

目標につきましては、芸濃地域が目指す姿は、これから2年間を掛けて、協議・検討いたします3つの大きな課題を後期基本計画の目標として明記を求めています。

先ほどの地域が目指すまちづくりについての皆さんの意見も加えてもう少しまとめていきたいなと思っております。

そして、課題につきましては、それぞれの課題、前回の意見などを具体的な表現を含めて列記をさせていただいております。

最後に地域かがやきプログラムにつきましては、審議会の前回の評価のとおり、今後も継続して取り組めるように表現をしております。

これはあくまで審議会としての意見として提出いたしますので、修正等がありましたら今からご検討をよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

鈴木会長

はい、有難うございました。担当の説明が終わりましたので、何かご質問、ご意見があれば挙手をお願いいたします。吉田委員。

吉田委員

僕なりに気が付いたことだけ意見を出させて下さい。1ページの1、上から3行目の歴史資源となっておりますけどもこれは的を入れたらどうかというふうに思いました。2つ目は最後の行で学校跡地というふうになってますね、これは跡地という表現が正しいのですか。私はしばらくの間、建物とか学校の体育館、これは残るような気がしますので、跡地というのやったら全部壊したその土地をどう使うかということになっていると思いますので、表現はどうかなと思いましたが、皆さんの意見を聞かせて下さい。2ページの幼保一元化、ここでは全文良いのですけども、やっぱり芸濃町でこの間の話で例え少人数であっても保育園児の入所待ちの方がみえるというふうに言われてましたから幼保一体化については、保育園児の入所待ちの解消、待機児童の解消等をはかり、保護者のニーズ等を考慮しというふうに続けていったらどうかと思いました。(2)番の小学校の跡地ですが、跡地は変えてもらうとしても地域だけに限定するのではなくて津市としての活用も早期に確立する。芸濃、一緒になるかどうか分かりませんが、それは追いかぶせておいたらどうでしょうかと思いました。それから4の旧明村役場庁舎、これは貴重な文化財としての魅力を損なわないような保存と、ここは地域振興ということも入れてもらって、地域振興にも寄与する活用を図ることと結んではどうかというふうに思いました。3ページの7で人口減のどなたかの意見の中に津市全体の中でも芸濃町は毎年若干ではありますが、人口が増加しております。伊勢自動車道の芸濃インターがあり、銀行、病院、ショッピング店もあります。学校も近距離にありと、だからそういう中で例

えば住宅地とか芸濃町の人口増になるような枕詞をおいたらどうかなというふうに思いました。それから9のユニバーサルデザインの精神というふうに書いてあるのですが、それは当然ですし、このところは老人も含め子どもさんも含め乳幼児も含め障がい者も含めるということであれば、多くのパンフレットに出ておるように誰もが安心して暮らせることができるまちづくりというふうになんかちょっと明確に入れておいた方が良さうな気がしましたので、いっぺん意見を出させていただきました。以上です。

鈴木会長 有難うございました。ただ今の意見に対して回答をお願いします。どうぞ。

地域振興担当主幹 いろいろ意見をいただきまして有難うございました。今のいろいろご指摘があった文章ですが、一度うちの方で検討させていただきまして加除させていただきたいと思ひます。

鈴木会長 有難うございます。他にございますか。

鈴木会長 この文面で今、吉田さんが言われたところを若干修正いたしまして、提出いたしますがまたもう一度、修正案については次回見ていただく予定ですが、他に何かご意見あればこの際お願いします。

鈴木会長 ご意見もないようでございますので、合併20事業と言いますか、芸濃地域の2事業のうち、残る一つが幼保一体化は、目標にも挙げられていますが、観光に関して言えば、津芸濃大山田線の拡幅、これを無くしては進まないと思われまますので、これは目標に加えていただきたいと思ひます。

この津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言についての提出は事務局、いつ頃になりますか

地域振興担当主幹 一応、9月18日が提出期限となっておりますので、本日の意見等をまとめ、また修正したものを次回の審議会で最終確認していただきまして、提出したいと思っております。ただ9月になりますと、市議会、決算委員会等各種議会関係が多くありますので、それらの日程を調整しますと、9月12日ぐらいにもう一度審議会を開かせていただきたいと思ひますので、どうでしょうか。

鈴木会長 今回は数が5回目となりますけれども、9月の12日に確認の審議会を持ちたいということですが、皆さんいかがですか。日程上、この日がほぼ決定やそうですけれども。

地域振興担当主幹 9月12日、水曜日の午後1時30分からです。今回は午前中にしましたけれども次回はいつも通り午後1時30分を予定しております。

鈴木会長 次回よろしいでしょうか。

片岡(福)委員 私はちょっと出席出来ません、すいません。

鈴木会長 欠席の方はやむをえませんが出来るだけ出席をお願いしたいと思います。
それまでに事務局、取りまとめておいて下さい。総合支所長。

総合支所長 文章、素案だけ示させていただいたのですが、今市長が言われたようにいろんなやつ想いが皆さんおっしゃっていただきましたので、それも入れるものならもっと加えて具体的に入れるものを加えた形で修正させていただく。基本的には変わりませんが、文章にいろんな追加があるか分かりませんが、そういう形で直させていただく方向でいきますのでよろしく願いいたします。

鈴木会長 せっかく市長さんと対話したのですのでそれも入れるだけ入れておいて下さい。

鈴木会長 それでは、次の項に入ります。事項書の4 その他についてですが、事務局何かございますか。

4 その他

地域振興担当主幹 特にございませので。

鈴木会長 委員の皆さん、何かございますか、その他の項について。
事務局、もうよろしいな。

鈴木会長 それでは有難うございました。以上で本日の議事はすべて終了しました。委員の皆様お疲れさまでございました。次回、9月12日、水曜の午後1時30分からよろしくお願い申し上げます。それではどうも有難うございました。